



「朝鮮半島南部の移住漁村『日本村』に関する調査研究」

ニュースレターNO.6 科学研究費による基盤研究 A (研究代表 崔吉城)

2009.6.1



崔吉城『映像が語る植民地朝鮮』(民俗苑、2009)



館野哲：書評

最近、韓国の大型書店を見て回ると、朝鮮末期や植民地時代の写真、新聞雑誌記事、マンガ、図版などを収録した出版物にしばしば出くわす。これまでこの種の出版物はあまり目に付かなかったから、ひとつの時代を客観的に照射し、再考してみたいという読者の要求に応じたものだろう。

そうした流れに沿う貴重な1冊が刊行された。文化人類学の研究者である著者は、数多くの著書で知られているが、今回は「映像資料」という視角から植民地朝鮮での民俗学研究にメスを当てている。

(『出版ニュース』(4月21日から抜粋))

←本書の中 1914年鳥居龍蔵が済州島で撮った写真

<証言聴取>



ピン生まれで、疎開の時の屈辱と飢餓の状況を語った。

野口氏(左から2番目)は1944年咸鏡北道城津で小学校の教師として終戦を迎え、ソ連軍や朝鮮保安隊による略奪などの状況を語ってくれた。

バプテスト教会の牧師である藤田英彦氏(写真左)夫妻と野口まき子氏(左から2番目)の証言を聞いた(2009年3月22日、崔宅で)。撮影は元KRYTVの権藤博志氏(中央に立っている)、鉾野保雄氏(右端)がノートを取った。藤田氏は釜山生まれ、小学校、京城中学校一年生、幼年陸軍学校で軍国主義教育を受けたが、戦後キリスト者となった。奥様(左から4番目)はフィリ

満州映画協会に勤めた曾根崎明子氏



左は曾根崎明子氏、右は娘の河波氏

曾根崎明子氏（82）は満州映画協会に勤め、1944-46年に映画の編集をした人であり、下関在住である。彼女の夫の曾根崎国臣氏は満州映画協会設立の前から終戦までニュース映画を撮影したという。彼女の父の小栗美二氏は映画の挿絵や字幕などを書いた。彼女が主に関わった「子供満州」「嵐は怖い」などを上映し、見てもらった。彼女はこのような映像が今まで奇麗に残っていることに感動した。

磯永和貴 「植民地時代に台湾・台中神社」



研究室に昭和3年の熊本県から朝鮮半島と台湾で住んでいた人々の名簿がある。熊本県人が、朝鮮半島には5450人、台湾には1220人が住んでいたことが判明する。3月、台中に訪問したが、人口が少ないように都市の規模は、朝鮮半島の諸都市に比べてコンパクトであった。先の名簿によると台中に住む熊本県人は266人である。

←台中神社の参道

<研究動向>

- * 崔吉城：NHK 総合テレビ「ゆうゆうワイド」に出演、戦前、朝鮮で作られた劇映画について語った（3月23日午後6時10分～7時）
- * 崔吉城：「イギリスとアイルランドの植民地化と葛藤」The Conflicts between British Empire and Ireland（韓国文化人類学会50周年記念学術大会、ソウル大学で発表）
- * 原田環：「第二次日韓協約反対運動と皇帝高宗」（朝鮮史研究会第45回大会、パネル2、仏教大学、2008.10.26）
- * 竹本正壽：2008年9月19日から24日に韓国で「朝鮮海峡」の著者大木信夫氏と柳福萬（83歳）氏のインタビューをし、映像取材をおこなった。
- * 榎田宏治と崔吉城：周南の八代「鶴憩いの村」の鶴鑑賞員である弘中数実氏（90歳）を訪ねてシベリア流刑8年間の肉筆記録の4冊のノートを借りてきた。

研究組織	
研究代表	崔吉城（東亜大教授） dgpvc081@yahoo.co.jp http://www.geocities.jp/dgpvc081/
研究分担者	原田環（県立広島大教授）、木村健二（下関市立大教授） 鈴木文子（仏教大教授）、榎田宏治（東亜大教授） 竹本正壽（東亜大教授）、上田崇仁（愛知教育大准教授） 磯永和貴（東亜大准教授）